

ウェルビーイングと人的資本会計

中野 誠

目 次

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. はじめに | 5. 従業員資本コストとマルチ・ステークホルダー理論 |
| 2. ウェルビーイング研究の枠組みと構成概念 | 6. おわりに |
| 3. 人的資産と従業員持分 | |
| 4. 二つの資本主義、二つのBS | |

本稿では、第一に、ウェルビーイングに関する学術研究を整理し、構成概念の確認をする。第二に、人的資本会計、人的資産、従業員持分、従業員資本コストに関する概念を整理する。第三に、ウェルビーイングと人的資本会計の関係性の考察を通じて、マルチ・ステークホルダー型の貸借対照表、マルチ・ステークホルダー型WACCという考え方を紹介し、未来の会社の姿をイメージする。

1. はじめに

人的資本に関しては、経済産業省において、「持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会」が設置され、人事・財務の両側面から、人材の活用に関する議論が行われてきた。さらに、2022年6月に公表された金融審議会「ディスクロージャーワーキング・グループ報告—中長期的な企業価値向上につながる資本市場の構築に向けて—」においても、中長期的な企業価値向上にお

ける人材戦略の重要性を踏まえ、「人材育成方針」「社内環境整備方針」「女性管理職比率」「男性の育児休業取得率」「男女間賃金格差」について、有価証券報告書での開示が検討されている。

一方、ウェルビーイングは、比較的新しい論点であり、政策的議論も始まってから日が浅いようである。本稿では、第一にウェルビーイングの学術的・概念的整理から始める。第二に人的資本会計の概念的整理を行う。その上で、ウェルビーイングと従業員資本コストの関係について議論を行



中野 誠 (なかの まこと)

一橋大学大学院経営管理研究科教授。1995年一橋大学大学院商学研究所博士課程単位取得退学。2009年より現職。2022年より㈱アバントグループ社外取締役。この間、日本銀行金融研究所客員研究員、シドニー大学ビジネススクール客員研究員、ASBJ無形資産専門委員を務める。主な著書に、『マクロ実証会計研究』（日本経済新聞出版、2020年、共著）、『戦略的コーポレートファイナンス』（日本経済新聞出版社、2016年）、『業績格差と無形資産』（東洋経済新報社、2009年）がある。博士（商学・一橋大学）。